

2023年度 差別をなくす人権講演会



8月23日（水）、日出町中央公民館ホールにて「差別をなくす人権講演会」を開催しました。講師に山末由紀さん（宇佐市教育委員会 社会教育指導員）をお招きし、「部落差別の現状から～学習をとおして学ぶ～」の演題で、部落差別問題についてのお話をいただきました。

私が受けた 結婚差別

被差別部落に嫁いできた山末さんですが、結婚の際は母親との考えの違いから、家を飛び出すような形で相手の家に入りました。そうした中、自分の親族から相手の身元調査をされましたが、その時の祖父の「いつまでそんなこと言いよんのか！」の一言が心の支えとなりました。山末さんが今でも根強く残る部落差別を実感するのは、こういった結婚差別、部落差別発言、差別落書きを目の当たりにする時です。

今では成人になっている子どもが幼少の頃、PTA研修や教職員との対話学習会の中で、「部落は怖い地区、遊びに行っちゃいけないところ」などの声がありました。こんなことを言われては、うちの子たちには不安な気持ちが残るばかりで、私たち被差別部落の人は、「死ぬまで・死んでからも差別され続け、隠れることもできない」と感じ、差別をなくすために学習していこうと決心しました。今も地区の方たち・子どもたちと一緒に地区学習会をし、差別の理不尽さや人権の大切さを学び続けています。

わが子の悩み

山末さんは、この学習会を続ける中で、ご自身の子どもたちが実際に持っていた悩みを語りました。「長女は、高校の時の人権学習（LHR）の時間が嫌で嫌でたまらなかったと・・・理由はクラスメイトからのマイナスな言葉『部落出身の友だちがいらないからわからない』『障がい者の家族がいらないからわからない』という類の言葉が、あまりに他人事で、悲しい気持ちや怒りが込み上げてくるから・・・。そんな長女を救ってくれたのは同じ人権学習に頑張っていた仲間の『同じ立場に立ってみよ・・・』という言葉でした。そこから子どもたちを交えて教材を作り直し、授業のやり直しが始まったということです。

次女は、人権作文の中で『LGBTQ』や『部落』などの単語自体が差別なのではないか、その言葉に壁を感じ傷つく人もいるのではないかと、ということをするどい感性で書きました。私は当初、『そっとしておけば子どもたちは幸せになる』と思っていましたが、そうではないと気づきました。」

山末さんは、今でもたくさんの差別が残っている、この現実から抜け出すためには学習が必要、学習をしていく中で部落差別を見抜く力・立ち向かう精神力を身に付けていくことが大切なんだと締めくくりました。

【アンケートの中に多数のご意見をいただきました】

- 講師が自分の辛い経験を話すのがどれだけしんどいか、私にはとても伝わりました。他人事として聞いてはいけないと思いました。
- 隠すのではなく、差別することがおかしいと伝えていく。「結婚差別」「就職差別」がまだある事。しっかり人権学習をやって、学ばなければならないと感じました。
- 正しい情報を身につけることの大切さを改めて感じました。
- 部落について知るには、当事者の方と話したり、話を聞いたりして、自分の固定概念を振り返り、間違いを正すことを積み重ねていくことが大事だと思いました。
- 何気ない言葉や行動が差別につながるということを心に刻んでいきたいです。



表現の自由

大神中学校 三年 正留 佑稀菜

まず、世の中には年齢や性別にあった髪形や服装ではないといけないという考えがある。確かにTPOに合わせることは大事だと思うが、プライベートでは自由にしたいと思う。だが、好きな髪型や服装にしたいけれど周りの人の目が気になる人も多いのではないか。それはなぜなのか。

私が考えるその理由は今、世の中が多様性を受け入れようとしているだけで完全に受け入れられていないからだと思う。受け入れるためには、自分が生まれもった身体の性別と心の性別が一致しない状態の性同一性障害についての知識や辛さ、大変さを知ることが大切なのではないか。そうすることと今までは違う気持ちや考え方を知り、多様性が広がって世の中は少しても良い方向に変わると思う。元々日本の憲法では表現の自由が保障されているので誰でも自由に表現していいのである。ほかに平等権という性別や年齢関係なく全ての人が等しい扱いを受ける権利もあり、女性の長髪はいいけど男性の長髪はいけないということはその権利を侵害しているのではないか。そのようなことを他人事とは思わずに自分のことだと思って考えることが大切だと思う。

まずは、誰でも自由に表現できることを知るだけでも世界は変わと思う。そして、性別関係なく全ての人が自分の思うままに表現していける世界になるといいなと私は願う。

お知らせ

第14回

日出町人権フェスティバル

【日時】

令和5年12月2日(土)

【場所】

日出町中央公民館・交流広場 HiCaLi・日出町立図書館

【内容】

◆人権作品入賞者の表彰
(9:15 ~ 10:00)

◆人権講演会
(10:00 ~ 11:00)

講演 : 海原みどりさん
元 OBS 大分放送アナウンサー

◆人権作品展示
*その他、人権関連のイベント
を行う予定です



ぼくができること

川崎小学校 六年 房崎 恵都

ぼくは視覚障害のある人を、時々、家の近くで見かけることがあります。その時、ぼくには何かできないのかと思っていました。

世の中には、目が不自由な人が安心して暮らせる工夫があります。点字ブロックやシャンプーのボトルなどです。しかしながら、ぼくは生活の中で、あまりこういった工夫を気にしたことがありません。わけは、ぼくが健常者だからです。いつもの生活の中で、目が見えない状況を想像することはありません。

しかし、ぼくは学校の授業で、目かくし体験をしたことがあります。目が見えづらい状態だと、歩くことにも恐怖を感じ、不安でたまりませんでした。でも、その時だれかが近くにいてと安心してました。

ここでぼくは気が付きました。一番大切なことは、思いやりのある行動をとるということです。困っている人の不安を想像し、安心できるように、声をかけ、行動を起こすことが大切だと思うのです。

世界に目を向けると、障がいがなくとも、生活の中で困りを抱えている人が多くいます。貧困にあえぐ人、人種や宗教で差別を受けている人、性別により苦しい思いをしている人…。みんなが安心して暮らせるために大切なことは、思いやりのある行動をとることなのです。ぼくもこれから自分にできることを考え、進んで行動につないでいきたいと思っています。